

# 若者が希望を抱ける 「普遍主義の福祉社会」へ



弁護士 久野 由詠

## —海外視察と日弁連人権擁護大会(青森)のご報告—

第61回日本弁護士連合会人権擁護大会の分科会実行委員として、5月に英国、6月にスウェーデンへ視察に行きました。人権大会と併せてご報告します。

### ■英国

～若者から社会を変える～

労働組合、Tax Justice Network、反緊縮運動団体などを訪問し最も印象深かったのは、コービン氏を労働党党首に押し上げた若者団体「モメンタム」創始者の「『社会をより良くしたい』という希望をもった運動こそが持続する」との発言でした。

### ■スウェーデン

～みんなで支え合う社会～

中央学習補助委員会、学校選挙本部、余暇活動センター、国会議員、自治体などを訪問し、普遍主義の福祉政策は、徹底した民主主義教育と、充実した余暇活動による“支え合いを体感できる環境”に基づいていることを痛感しました。

### ■青森シンポジウム

「社会保障の崩壊と再生

—若者に未来を—

①本田由紀東大教授の基調講演、②若者未来サミット、③本田氏・井手英策氏・後藤道夫氏・諏訪原健氏によるパネルディスカッションの豪華三本立て。私は②サミットの進行役として日本とスウェーデンの若者達14名と打合せを重ね、日本の若者が競争と自己責任論に苦しんでいることを伝えるとともに、“ありのままの自分でいい”“試行錯誤する時間と経済的保障がある”という“希望を抱ける社会”を訴える場を若者達と作りました。

翌日の人権擁護大会では、分科会が提案した「若者が未来に希望を抱くことができる社会の実現を求める決議」が圧倒的多数で可決。今後、決議に基づく実践を進めていきます。